

I. 2014年度事業報告（2014年3月1日から2015年2月28日まで）

1 庶務報告

（1） 総会

第58回（2014年度）通常総会を2014年5月2日、東京大学中島董一郎記念ホール（東京都文京区弥生1-1-1）において開催し、次の議案を可決した。

第1号議案 計算書類等の承認の件

第2号議案 名誉会員承認の件

（2） 理事会、委員会等の開催

2014年度（2014年3月1日から2015年2月28日）は下記のとおり開催した。

理 事 会（5回） 4月17日、5月2日、7月22日、
12月16日、2月17日

業務担当理事連絡会（5回） 4月17日、7月16日、10月8
日、12月9日、2月9日

授賞選考委員会（2回） 11月11日、12月12日

学術活動強化委員会（2回） 3月28日、8月18日

和文誌編集委員会（3回） 3月28日、5月23日、10月4日

和文誌運営委員会（2回） 5月23日、10月4日

英文誌編集委員会（1回） 3月29日

英文誌編集総務会（1回） 1月29日

産学官学術交流委員会（2回） 9月2日、12月4日

広 報 委 員 会（3回） 3月29日、7月10日、11月13日
財 务 委 員 会（7回） 4月17日、7月16日、10月8日、
11月12日、12月9日、1月13日、
2月9日

JABEE対応委員会（1回） 3月30日

東京大会実行委員会（1回） 3月17日

（3） 会員の状況

2014年度（2015年2月28日現在）の会員数は次のとおりである。

	2014年度	2013年度	増減
名 誉 会 員	17	17	0
有 功 会 員	203	203	0
シニア会員	287	330	- 43
一 般 会 員	6,864	7,635	- 771
教 育 会 員	28	28	0
学 生 会 員	2,691	2,103	+ 588
国 外 会 員	61	149	- 88
団 体 会 員	280	291	- 11
贊 助 会 員	109	111	- 2
(口数)	(222)	(225)	(- 3)
合計	10,540	10,867	- 327

1) 有功会員

2014年12月開催の第333回理事会の議決により次の8名の会員が有功会員として承認された。

中嶋睦安氏、早澤宏紀氏、森 敏氏、有賀豊彦氏、佐

伯哲二氏、綿貫雅章氏、宮川都吉氏、磯部 稔氏（生年月日順）

2) フェロー

2014年12月開催の第333回理事会および2015年2月開催の第334回理事会の議決により次の32名の会員がフェローとして承認された。

浅野泰久氏、阿部啓子氏、伊藤幸成氏、井上國世氏、長田裕之氏、木曾 真氏、北本勝ひこ氏、久原 哲氏、後藤俊男氏、沢村正義氏、清水(肖)金忠氏、新免芳史氏、水光正仁氏、平 秀晴氏、田之倉 優氏、寺尾純二氏、徳田 元氏、戸坂 修氏、林 英雄氏、藤田泰太郎氏、松井博和氏、松尾憲忠氏、松下一信氏、松田 讓氏、松本正吾氏、三輪清志氏、村田幸作氏、山根久和氏、横関健三氏、横田明穂氏、吉田 稔氏、依田幸司氏（五十音順）

（4） 研究業績の表彰、奨励

2014年度は日本農芸化学会賞2件、日本農芸化学会功績賞2件、農芸化学技術賞4件、農芸化学奨励賞10件の授賞式を行った。

また、授賞選考委員会の選考を経て本会から各財団等に對して推薦した候補者のうち、下記の様に受賞、採択された。

（公財）森永奉仕会・研究奨励金：1件

（公財）農学会・第13回日本農学進歩賞：1件

日本農学会・平成27年度日本農学賞：1件

（公財）三島海雲記念財団・第4回三島海雲学術賞：1件

（5） 研究発表会、シンポジウム、講演会等の開催

1) 2014年度全国大会

2014年度全国大会は2014年3月27日から30日までの4日間、京王プラザホテル、明治大学生田キャンパス（神奈川県川崎市）を会場として開催した。大会第1日目（3月27日）は京王プラザホテルにおいて、学会賞等授賞式、第11回農芸化学研究企画賞表彰式、相談役会、学会賞等受賞者講演および大会懇親会が盛大に行われた。大会第2日目～第4日目（3月28日～30日）は明治大学において、口頭発表による一般講演（1,986題）、シンポジウム（29テーマ・173題）の発表と討論、ランチョンセミナー（14社・173題）、ミキサー、展示会（103社・143小間）が開催された。また、高校生による「ジュニア農芸化学会」のポスター発表（54題・54校）が開催され、大変盛況であった。大会期間中は託児ルームが開設された。大会参加者数は4,931名であった。

2) 第40回農芸化学「化学と生物」シンポジウム

第40回より「農芸化学」を冠した農芸化学「化学と生物」シンポジウムに名称変更した。

第40回農芸化学「化学と生物」シンポジウム「私たち

の健康と食品」は、2014年7月9日に、東京大学伊藤国際学術研究センターにおいて本会創立90周年記念事業として開催された。シンポジウムでは講演の他、農芸化学技術賞受賞9社（アサヒグループホールディングス（株）、味の素（株）、池田糖化工業（株）/パナソニックヘルスケア（株）、キリン（株）、東洋紡（株）、（株）Mizkan Holdings、（株）明治、森永乳業（株）、ライオン（株））による展示が行われ、424名の参加者があった。

3) 第21回農芸化学Frontiers シンポジウム

第21回農芸化学Frontiers シンポジウムは、2014年3月30日～31日にデュープレックスセミナーホテル（茨城県守谷市）にて、講演会・シンポジウムが開催され、96名の参加者があった。

(6) 國際會議、國際シンポジウムの共催・協賛・後援

【2014年】(7件)

- ・首都大学東京 金の化学研究センター 国際キックオフ・ワークショップ（首都大）《協賛》(5月14日～15日)
- ・プロテイン・アイランド・松山 国際シンポジウム2014（愛媛大）《後援》(9月17日)
- ・12th International Symposium on Cytochrome P450 Biodiversity and Biotechnology（京都）《後援》(9月24日～28日)
- ・2014地球環境保護 土壌・地下水浄化技術展（東京）《協賛》(10月15日～17日)
- ・第20回名古屋メダルセミナー（名大）《協賛》(10月27日)
- ・The 3rd International Symposium on Chemical Biology of Natural Products: Target ID and Regulation of Bioactivity（大阪）《協賛》(10月28日～29日)
- ・Active Enzyme Molecule 2014（富山）《後援》(12月17日～19日)

【2015年】(7件)

- ・第12回アジア栄養学会議（The 12th Asian Congress of Nutrition）(ACN2015)（横浜）《後援》(5月14日～18日)
- ・The 1st Tsuneko & Reiji Okazaki Award（名古屋大）《協賛》(5月25日)
- ・11th Hirata Award（名古屋大）《協賛》(5月25日)
- ・The 3rd International Symposium on Transformative Bio-Molecules（名古屋大）《協賛》(5月25日～26日)
- ・The XVIII International Sol-Gel Conference (Sol-Gel 2015)（京都）《協賛》(9月6日～11日)
- ・第13回国際有機化学京都会議 The Thirteenth International Kyoto Conference on New Aspects of Organic Chemistry (IKCOC-13)（京都）《後援》(11月9日～13日)
- ・環太平洋国際化学会議2015 (The 2015 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies (PacificChem2015))（ハワイ）《後援》(12月15日～20日)

(7) その他本会の共催・協賛・後援による国内学術集会【2014年】(52件)

- ・第8回大阪大学フロンティア産業バイオシンポジウム（阪大）《協賛》(3月31日)
- ・平成26年度岩手県三陸海域研究論文知事表彰事業（岩手）《後援》(4月27日～8月29日)
- ・劇団俳優座公演「先生のオリザニン」（東京）《協賛》(6月12日～27日)
- ・日本アミノ酸学会主催第4回産官学連携シンポジウム～豊かな生活を支えるアミノ酸の科学～（東大）《協賛》(6月16日)
- ・2014年創薬シンポジウム「天然物（ハーブなど）から化粧品、農薬、医薬品の開発をめざす」（琉球大）《後援》(6月23日)
- ・2014年産業技術総合研究所中部センターオープンラボ（産総研中部セ）《協賛》(6月24日～25日)
- ・平成26年度JABEE 農学系分野審査講習会（東大）《協賛》(6月28日)
- ・日本包装学会第23回年次大会（東大）《協賛》(7月3日～4日)
- ・東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2014 川内村ワークショップ（福島）《後援》(7月4日)
- ・第26回万有札幌シンポジウム（北大）《協賛》(7月5日)
- ・生物工学フォーラム「先端技術による新たなバイオテクノロジー」（理研）《協賛》(7月25日)
- ・文部科学省創薬等支援技術基盤プラットフォーム公開シンポジウム（東京）《後援》(8月27日)
- ・第27回におい・かおり環境学会（文京学院大）《協賛》(8月27日～28日)
- ・JASIS2014（幕張）《後援》(9月3日～5日)
- ・第65回コロイドおよび界面化学討論会（東京理科大）《協賛》(9月3日～5日)
- ・第28回カロテノイド研究談話会（石川）《協賛》(9月4日～5日)
- ・第23回日本バイオイメージング学会学術集会「公開講座」並びに「学術講演会」（阪大）《協賛》(9月4日～6日)
- ・第12回高付加価値食品開発のためのフォーラム（裾野）《協賛》(9月5日～6日)
- ・2014年度日本冷凍空調学会年次大会（佐賀大）《協賛》(9月10日～13日)
- ・第24回イソプレノイド研究会例会（岡山大）《協賛》(9月12日)
- ・第50回記念熱測定討論会（阪大）《共催》(9月28日～30日)
- ・第56回天然有機化合物討論会（高知）《共催》(10月15日～17日)
- ・第50回X線分析討論会（東北大）《協賛》(10月30日～31日)
- ・大豆のはたらき in 仙台一食を通して健やかな人生を—

- (仙台)《後援》(10月31日)
- ・生物発光化学発光研究会第31回学術講演会（信州大）《協賛》(11月1日)
 - ・世界結晶年（IYCr）記念講演会（東大）《協賛》(11月2日)
 - ・第61回界面科学部会秋季セミナー（東京）《協賛》(11月4日)
 - ・第11回日本たまご研究会（Egg Science Forum 2014）（京女大）《後援》(11月4日)
 - ・第55回機器分析講習会 第3コース「MSの分析化学への活用に関する基礎講座」（東京）《協賛》(11月4日～5日)
 - ・第53回NMR討論会（阪大）《共催》(11月4日～6日)
 - ・第13回食品レオロジー講習会（東大）《協賛》(11月6日～7日)
 - ・第106回有機合成シンポジウム（早稲田大）《共催》(11月6日～7日)
 - ・IIRS創立十周年記念学術講演会（東大）《後援》(11月7日)
 - ・第19回静岡健康・長寿学術フォーラム（沼津）《後援》(11月7日～8日)
 - ・サイエンスアゴラ2014（東京）《協賛》(11月7日～9日)
 - ・第31回医用高分子研究会講座～バイオイメージング・マニピュレーションと高分子～（東京）《協賛》(11月10日)
 - ・2014年度オレオマテリアル部会（関東支部）セミナー（東理大）《協賛》(11月11日)
 - ・アグロ・イノベーション2014（東京）《協賛》(11月12日～14日)
 - ・第42回構造活性相関シンポジウム（熊本）《後援》(11月13日～14日)
 - ・日本希土類学会第32回講演会（東京）《協賛》(11月14日)
 - ・第4回食と命のサイエンス・フォーラム「子どもの肥満と食育—広がる健康対策の成果をたどる」（東大）《後援》(11月15日)
 - ・第47回酸化反応討論会（崇城大）《共催》(11月14日～15日)
 - ・第8回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム（高知）《協賛》(11月17日～19日)
 - ・ニューメンブレンテクノロジーシンポジウム2014（東京）《協賛》(11月18日～21日)
 - ・平成26年度後期（秋季）有機合成化学講習会（東京）《共催》(11月20日～21日)
 - ・第55回高圧討論会（徳島大）《協賛》(11月22日～24日)
 - ・第37回情報化学討論会（豊橋）《共催》(11月27日～28日)
 - ・文部科学省科学研究費補助金（研究領域提案型）「生合成マシナリー：生物活性物質構造多様性創出システムの解明と制御」（平成22年～26年度）第8回公開シンポジウム（東大）《後援》(12月5日～6日)
 - ・第14回基準油脂分析試験法セミナー（東京）《協賛》(12月8日～9日)
 - ・第41回炭素材料学会年会（福岡）《協賛》(12月8日～10日)
 - ・理研シンポジウム「第15回 分析・解析技術と化学の最先端」（理研）《協賛》(12月11日)
 - ・革新的環境技術シンポジウム2014～クリーンで経済的な低炭素社会を目指して～（東大）《後援》(12月17日)
- [2015年] (39件)**
- ・第20回高専シンポジウムin函館（函館工業高専）《協賛》(1月10日)
 - ・第26回高分子ゲル研究討論会（東大）《協賛》(1月19日～20日)
 - ・H26CAST教育講座「糖鎖科学・糖鎖工学の基礎から応用」コース（川崎）《後援》(1月22日～23日)
 - ・フーズ・サイエンスセミナー in 牧之原（牧之原）《後援》(1月26日)
 - ・日本微生物学連盟フォーラム『ユネスコ無形文化遺産「和食」とそれを支える微生物』（東大）《共催》(2月7日)
 - ・（公社）日本栄養・食糧学会関東支部第17回脂質栄養シンポジウム（東京）《後援》(2月21日)
 - ・第20回ペプチドフォーラム（長浜バイオ大）《協賛》(3月13日)
 - ・平成26年度農林水産省補助事業「6次産業化促進技術対策事業」報告会（東京）《後援》(3月23日)
 - ・第25回記念万有福岡シンポジウム（九大）《協賛》(5月16日)
 - ・食品ハイドロコロイドセミナー2015（京大）《協賛》(5月21日)
 - ・第32回希土類討論会（鹿児島）《協賛》(5月21日～22日)
 - ・第26回食品ハイドロコロイドシンポジウム（京大）《協賛》(5月22日)
 - ・第2回SBJシンポジウム（阪大）《後援》(5月22日)
 - ・第17回マリンバイオテクノロジー学会大会（東京海洋大）《協賛》(5月30日～31日)
 - ・日本ゾルーゲル学会第12回セミナー（地独）大阪市工業研究所）《協賛》(6月5日)
 - ・新規素材探索研究会第14回セミナー（横浜）《共催》(6月5日)
 - ・第26回万有仙台シンポジウム（仙台）《協賛》(6月6日)
 - ・第13回ホスト・ゲスト化学シンポジウム（東北大）《協賛》(6月6日～7日)
 - ・天然物ケミカルバイオロジー～分子標的と活性制御～第8回公開シンポジウム（東北大）《協賛》(6月8日～9日)
 - ・第107回有機合成シンポジウム（慶應大）《共催》(6月9日～10日)
 - ・日本ケミカルバイオロジー学会第10回年会（東北大）

《後援》(6月10日～12日)

- ・シンポジウム「モレキュラー・キラリティー2015」(早稲田大)《共催》(6月12日～13日)
- ・平成27年度前期(春季)有機合成化学講習会(東京)《共催》(6月15日～16日)
- ・第21回地下水・土壤汚染とその防止対策に関する研究集会(九州大)《後援》(6月18日～19日)
- ・構造活性フォーラム2015(東京)《協賛》(6月12日)
- ・岡山大学と慶應義塾大学の若手交流シンポジウム(慶應大)《協賛》(6月26日)
- ・第50回天然物化学談話会(仙台)《協賛》(7月1日～3日)
- ・第27回万有札幌シンポジウム(北大)《協賛》(7月4日)
- ・第52回アイソトープ・放射線研究発表会(東大)《協賛》(7月8日～10日)
- ・日本プロテオーム学会2015年会(熊本)《後援》(7月23日～24日)
- ・第5回高校生バイオサミットin鶴岡(慶應大)《後援》(8月2日～4日)
- ・第29回キチン・キトサン学会大会(東海大)《協賛》(8月20日～21日)
- ・第59回香料・テルペンおよび精油化学に関する討論会(近畿大)《共催》(9月5日～7日)
- ・第57回天然有機化合物討論会(神奈川)《共催》(9月9日～11日)
- ・日本応用糖質科学会平成27年度大会・応用糖質科学シンポジウム(奈良)《協賛》(9月16日～18日)
- ・第63回レオロジー討論会(神戸大)《協賛》(9月23日～25日)
- ・第38回ケモインフォマティクス討論会(東大)《共催》(10月8日～9日)
- ・第52回ペプチド討論会(平塚)《共催》(11月16日～18日)
- ・第45回複素環化学討論会(早稲田大)《共催》(11月19日～21日)

(8) 支部主催等による学術集会

北海道支部(3件)

- ・平成26年度北海道支部・東北支部合同支部会(北大, 9月22日～23日)
- ・平成26年度北海道支部・東北支部合同支部会ポストシンポジウム「若手の会」(札幌, 9月23日～24日)
- ・平成26年度支部講演会(北大, 12月13日)

東北支部(5件)

- ・支部シンポジウム「植物ホルモン研究の“New Era”一分子レベルでの新展開ー」(山形大, 7月19日)
- ・平成26年度北海道支部・東北支部合同支部会(北大, 9月22日～23日)
- ・平成26年度北海道支部・東北支部合同支部会ポストシンポジウム「若手の会」(札幌, 9月23日～24日)
- ・2014年度市民フォーラム「東北・岩手を元気にする

農芸化学(化学と生物)ー「地元研究者のメッセージから地域資源と食品と健康を考える」ー(岩手大, 10月18日)

・平成26年度特別シンポジウム(東北大, 11月29日)

関東支部(7件)

- ・第1回支部例会 受賞講演・シンポジウム「微生物の多様な代謝メカニズムと精巧な生合成マシナリー」(東大, 5月24日)
- ・若手企画研究会・第13回微生物研究会(東京農業大, 7月26日)
- ・バイオサイエンス・スクール2014(日大, 8月6日)
- ・関東支部2014年度大会(埼玉大, 10月18日)
- ・2014年度企業イベント「企業研究員からのメッセージ」(東大, 11月15日)
- ・若手企画研究会・第2回天然物化学研究会(東農大, 11月21日)
- ・第2回支部例会 受賞講演・シンポジウム「ユニークな酵素の研究の最前線」(東工大, 11月29日)

中部支部(3件)

- ・日本農芸化学会創立90周年・中部支部創立60周年記念中部支部第170回例会 シンポジウム「環境調和・食と農芸化学」(静岡県立大, 7月5日)
- ・日本農芸化学会創立90周年・中部支部創立60周年記念中部支部第171回例会 ミニシンポジウム「生物機能をひもとくケミカルバイオロジー研究の最前線」および一般ポスター発表(名古屋大, 10月11日)
- ・日本農芸化学会創立90周年・中部支部創立60周年記念中部支部第172回例会 若手シンポジウム「化学の視点から拓く天然物・生命科学研究」(信州大, 11月22日)

関西支部(5件)

- ・支部例会(第484回講演会)(京府大, 5月24日)
- ・支部例会(第485回講演会)(阪府大, 7月12日)
- ・日本農芸化学会創立90周年・関西支部創立80周年記念大会(第486回講演会)(奈良, 9月19日～20日)
- ・支部例会(第487回講演会)(神戸大, 12月6日)
- ・支部例会(第488回講演会)(京大, 2015年1月31日)

中四国支部(6件)

- ・学会創立90周年記念第17回若手シンポジウム(岡山大, 5月16日～17日)
- ・学会創立90周年記念第39回講演会(例会)(福山大, 5月31日)
- ・学会創立90周年記念第18回若手シンポジウム(愛媛大, 9月20日)
- ・学会創立90周年記念日本農芸化学会2014年度中四国支部大会(第40回講演会)(徳島大, 9月26日～27日)
- ・学会創立90周年記念第24回市民フォーラム「健康を維持するための食生活」(愛媛大, 11月8日)
- ・学会創立90周年記念第41回講演会(例会)(水産大,

2015年1月24日)

西日本支部（4件）

- ・第306回支部例会（福岡、5月23日）
- ・第51回化学関連支部合同九州大会（北九州、6月28日）
- ・2014年度支部大会（佐賀、9月18日～19日）
- ・第307回西支部例会および講演会（九大、2015年1月24日）

（9）JABEE（日本技術者教育認定機構）対応委員会報告

- 1) 2014年度には、農学一般関連分野では6件の継続審査（実地審査）があり、審査長1名、審査員2名、オブザーバー2名を派遣した。また、生物工学および生物工学関連分野では審査がなかった。
- 2) 2014年6月28日に「JABEE農学系分野審査講習会」が東京大学弥生講堂で開催された。本会からは、JABEE対応委員を含めて3名が参加した。また、JABEE審査員研修会が、7月5～6日、7月12日、7月26日、8月16～17日にあり、審査員、オブザーバーが参加した。
- 3) 公益財団法人農学会技術者教育推進委員会および農学一般関連分野審査委員会に委員長が参加するとともにJABEEのあり方等について意見を提出し、連携を図った。
- 4) JABEE分野別委員会（生物工学及び生物工学関連分野）に委員長が参加し、生物工学および生物工学関連分野との連携を図った。
- 5) 2014年度日本農芸化学会大会時（3月30日）に、JABEEランチョンシンポジウム「農学系人材養成に関する最近の取り組み」を開催し、約100名の参加者があった。

（10）関係団体等への委員等の推薦

- 1) 最高裁判所へ知財専門委員候補者3名を推薦した。
- 2) 大学評価・学位授与機構に機関別認証評価専門委員候補者1名を推薦した。
- 3) 内藤記念科学振興財團に選考委員候補者1名を推薦した。
- 4) IUFoST-Japan（国際食品科学工学連盟）の理事に熊谷日登美和文誌編集担当理事（日大）を推薦した。
- 5) 日本農学会に評議員：清水誠会長（東京農業大学）、三輪清志副会長（味の素）、運営委員：渡邊秀典庶務担当理事（東大）を推薦した。

（11）日本農学会

- 1) 平成26年度日本農学大会は2014年4月5日、東京大学山上会館において、日本農学賞授与式、読売農学賞授与式ならびに受賞祝賀会など開催された。
- 2) シンポジウム「ここまで進んだ！飛躍する農学」が2014年10月4日、東京大学弥生講堂一条ホールにおいて開催された。

（12）公益財団法人農芸化学研究奨励会

公益財団法人農芸化学研究奨励会は2014年度助成事業として、2014年11月に第42回研究奨励金選考委員会を開催し、5件（1件50万円、総額250万円）の研究奨励金交付を決定、実施した。国際会議出席費補助金については、2014年7月末日を締め切りに第64回、2015年1月末日を締め切りに第65回として公募し、それぞれ1件（総額15万円）、4件（総額75万円）の国際会議出席費交付を決定、実施した。

また、日本農芸化学会主催「高校生による研究発表会（ジュニア農芸化学会）」共催補助金（100万円）を日本農芸化学会へ送金した。

2 広報委員会報告

（1）サイエンスカフェの開催（全9回）

2014年度サイエンスカフェは以下のとおり全9回開催した。

1【第68回】（東京）^{*1}「一寸の虫にも五分の恋心～フェロモンと失恋の記憶～」（5月17日、三省堂書店神保町本店）講師：江島亜樹氏、コーディネーター：西川拓氏、参加者数21名

2【第69回】（北海道）^{*1}「「小さな生き物」とのお付き合い～暮らしの中の微生物～」（9月6日、三省堂書店札幌店）講師：曾根輝雄氏、コーディネーター：石井美季氏、参加者数23名

3【第70回】（味の素川崎工場）^{*2}「ゲノム解析—技術革命と近未来—」（10月4日、味の素（株）川崎工場）講師：養王田正文氏、コーディネーター：外内尚人氏、参加者数13名

4【第71回】（藤沢）「栄養とからだの関係を考えるサイエンスカフェ～時間栄養学？ベジファースト？時計遺伝子？食べ物と食べ方のサイエンス～」（10月18日、日本大学生物資源科学部 先端食機能研究センター）講師：関泰一郎氏、コーディネーター：熊谷日登美氏、参加者数28名

5【第72回】（仙台）「食と安全」（11月15日、キリンビール株式会社 仙台工場（VIPルーム））講師：永田裕二氏、コーディネーター：小西豊氏、参加者数45名

6【第73回】（京都）^{*2}「酵母の魅力に触れてみよう！～ストレスなんかに負けない！はたらきものの微生物のおはなし～」（11月22日、カフェフロッシュ）講師：高木博史氏、コーディネーター：京都カラスマ大学、矢崎一史氏、参加者数28名

7【第74回】（名古屋）「発酵は現代の鍊金術：目に見えない小さな微生物が人間生活を豊かにする」（11月28日、名古屋市科学館東館食堂 ミュージアムカフェ＆レストラン）講師：加藤雅士氏、コーディネーター：吉村徹氏、参加者数38名

8【第75回】（大阪）「貧血を治す薬が誕生するまでと

その後」(12月13日, うめきた・グランフロント大阪北館1階, ナレッジキャピタル, カフェラボ), 講師: 永尾雅哉氏, コーディネーター: 矢崎一史氏, 井戸端サイエンス工房, 参加者数21名

9 [第76回] (仙台)「美味しい食べものにはわけがある」(2月21日, 東北大学大学院 生命科学研究所「D04」生命科学プロジェクト総合研究棟 講義室AB(片平キャンパス)) 講師: 永井利治氏, 藤井智幸氏, コーディネーター: 此木敬一氏, 参加者数54名

*¹ 三省堂書店・日本学術会議農芸化学分科会と共に
*² 日本学術会議農芸化学分科会と共に

(2) 学校教育における農芸化学の普及活動補助の選考

2014年6月30日および10月31日の2回の締切を設けたところ1件の申請があり, 広報委員会で審議した結果, 1件を普及活動補助として採択した.

1) 「同志社中学校「わくわく理科授業」で「大豆と日本の食文化」を実習指導」(2014年5月~2014年10月, 同志社中学校) 申請者: NPO法人バイオ未来キッズ, 補助額200,000円

(3) 大会トピックス賞の表彰

2014年度大会一般講演発表1,986題から27演題を選定し, 口頭発表終了後, 対象者に郵送にて賞状を送付した.

(4) 大会記者発表

3月17日に東京(東大農学部)において報道各社を招き記者会見を開催した. 新聞, 出版関係者16社21名に学会及び2014年度大会の広報資料を配布し, 学会長から学会の紹介を, 大会実行委員長から大会の全体紹介を, さらに広報担当理事, プログラム委員長がトピックス27演題の紹介, 解説を行なった. そのトピックスのうち20演題(掲載6誌)が新聞各紙に掲載された.

(5) ホームページリニューアル

トップページの画面を全面リニューアルした. 中央上部画像, 左側コンテンツメニュー及び右側バナー画像メニューを見やすく使いやすい構造に改善したほか, 英語ページのリニューアルを行った. また農芸化学の名前の由来について記した「「農芸化学」という名前の由来は?」というページを作成した.

(6) パンフレット改訂

一般・学生向けパンフレットおよび公式パンフレットの改訂を行った. 共に緑を基調とした色鮮やかな配色でより見やすく, わかりやすいパンフレットに改善された.

(7) ニュースメール配信

メールアドレス登録会員向けニュースメールを2014年度は14回配信した. メールアドレス登録者は2015年3月現在 約7,763名.

(8) バナー広告

年次大会ホームページに設置した画像をクリックすることにより広告となるバナー広告は2015年3月現在で4社に利用されている.

(9) 企業ロゴマーク

学会ホームページに設置したランダムで表示される企業ロゴマークは2015年3月現在で14社に利用されている.

(10) 出前授業 (2014年度全6回開催)

1 [第14回] 2014年10月31日 熊本県立宇土高等学校「発酵食品ルネッサンス」

講師: 寺本祐司氏(崇城大学生物生命学部応用微生物工学科教授)聴講者: 高校1年生および2年生40名

2 [第15回] 2014年11月10日 佐世保市立早岐中学校「生物の進化を考える」講師: 下田満哉氏(九州大学大学院教授)聴講者: 中学3年生30名

3 [第16回] 2014年11月22日 実践女子中学校「おいしさと健康の化学」講師: 熊谷日登美氏(日本大学生物資源科学部 教授)聴講者: 中学3年生33名

4 [第17回] 2014年11月25日 白糠町立白糠中学校「生きるとは、学ぶとは」講師: 松井博和氏(北海道大学名誉教授)聴講者: 全校生徒97名

5 [第18回] 2015年2月7日 川越女子高校「生活の中の化学 農芸化学の研究開発と生活の中の農芸化学~味の素グループの研究開発を例として~」講師: 三輪清志氏(味の素株式会社)聴講者: 1年生13名, 2年生9名, 教員5名

6 [第19回] 2015年2月14日 八千代松陰中学校「昆虫が感染から身を守る力」講師: 石橋純氏(独立行政法人農業生物資源研究所主任研究員)聴講者: 中学1年生~3年生30名

3 学術活動強化委員会報告

(1) 補助金の交付

「国際学術集会」

外国人等講演会(申請3件, 採択3件)

No. 554 「Ten Feizi 教授講演会」(5月29日, 岐阜大学連合農学研究科)《共催》

No. 555 「Dr. Arthur Ram 講演会」(11月19日, 東京大学農学部)《後援》

No. 556 「Dr. Susan M. Gasser 講演会」(2015年2月23日, 東京大学農学部)《後援》

国際シンポジウム(申請1件, 採択なし)

「薮田講演会・薮田セミナー」

薮田講演会(申請なし)

薮田セミナー(申請1件, 採択なし)

上記の各種開催補助については申請条件の文言を改訂し, 会員からの申請をしやすくかつ本委員会が柔軟に対

応、審査できるようにした。

(2) 農芸化学「化学と生物」シンポジウムの開催

第40回より「農芸化学」を冠した農芸化学「化学と生物」シンポジウムに名称変更した。

本会創立90周年記念事業として、第40回農芸化学「化学と生物」シンポジウム（7月9日、東京大学 参加者424名）「私たちの健康と食品」と題して開催した。

(3) 第21回農芸化学Frontiersシンポジウムの開催

2012年度から学術活動強化委員会幹事が企画担当することになった第21回農芸化学Frontiersシンポジウム（3月30日～31日、デュープレックスセミナーホテル、参加者96名）は6題の講演が開催され、エクスカーション「ビールづくりの現場を観て、発酵の恵みを味わう！」と題してアサヒビール守谷工場を見学した。

(4) 日本農芸化学会フェローについて

2014年度から募集を開始した日本農芸化学会フェローについて、本委員会の中に委員6名から成るフェロー選考会を設置し選考を行った。フェロー選考会からは28名の候補者推薦があり、本委員会で承認後、理事会に諮り承認された。

フェロー制度規程について、会長によるフェロー候補者選出を可能とする変更について理事会に諮り承認され、会長推薦で4名の候補者が理事会承認された。

(5) 男女共同参画について

本委員会の中に男女共同参画準備会を設置し、2015年度からの男女共同参画委員会発足に向けて活動を開始した。2014年度東京大会において、男女共同参画ランチョンシンポジウム（3月30日、明治大学 参加者100名）を開催した。

4 和文誌編集委員会報告

委員会において「化学と生物」誌の企画・編集を行い、年12冊を会員に配付した。

委員会は企画・編集にあたって生命科学全般に関する話題を基礎から応用にわたってバランスよく取り上げ、読みやすい誌面をつくるよう努めた。

2014年5月より「化学と生物」のオンライン版の試行を開始し、会員に対するアンケート調査を行い、2015年3月の本格運用まで随時画面等の改善をおこなった。

会員は冊子体到着より早く学会ホームページのマイページよりオンラインで公開となった記事を見ることができる。オンライン版ではe-pubやHTMLも搭載し、PCはもとよりタブレット端末でも閲覧可能である。

巻頭言、プロダクトイノベーション、農芸化学@High School、和文誌編集委員長が選出した記事1件は、非会員でも閲覧可能とした。

冊子体は希望者には、年2,000円で配布し、名誉会員・賛助会員・団体会員、有功会員の希望者には、無料で配布することとした。

5 英文誌編集委員会報告

(1) 2014年1月よりBBBの冊子体・オンライン版の発行を小宮山印刷工業・J-STAGEから英国Taylor & Francis社に変更した。この際の契約により1号あたりの頁数が180頁前後に減少した。また、早期公開時から全論文無料公開であったものが各巻の発行年終了から1年後に無料公開に変更された。移行により製作費・送料の負担がほとんどなくなり、大幅な経費削減が可能となった。なお、移行当初は発行に遅延があったが、7月にはオンライン版、9月には冊子体と、いずれも従来通りに復帰した。

(2) 2013年11月までは掲載可と判定された論文に対して本会で英文校閲を行っていたが、2013年12月以降は英文校閲を行わず、著者に正しい英文での投稿を促している。英文校閲を行わないことにより経費が削減された。

(3) 2014年1月～12月の投稿数は前年より115編少ない820編、掲載数は前年より144編少ない314編であった。また、掲載論文の総頁数は460頁少ない2134頁であった。総頁数はTaylor & Francis社との契約に基づき制限されている。

投稿から掲載までの期間は、平均約236日（最短113日）、早期公開が平均約181日（最短77日）、審査期間は平均62日（最短3日）である。掲載までの平均期間が長い原因は78巻1号の製作遅延が大きい。また、1号あたりの頁数が契約で定められていることも関係している。

なお、2015年1,2号での投稿から掲載までの期間は、平均約223日であるが、早期公開が平均約112日とかなり短縮されている。

(4) 英文誌78巻からOpen Access（論文を掲載直後にFree Accessで閲覧可能、且つ著者や出版社に許可なしで図表の引用が可能）論文の掲載も行っている。78巻では1編であった。

(5) 英文誌78巻掲載のRegular Paper 216編のうち優れた論文12編を選出し論文賞とした。

(6) 英文誌76巻、77巻掲載のRegular Paper, Communication, Note全876編のうち、2015年1月末までに最も引用回数の多かった論文をMost-Cited Paper Awardとした。

(7) 過去3年に掲載されたReviewのうち最も被引用数の多かった論文に対する表彰としてMost-Cited Review Awardを新設し、英文誌76巻、77巻掲載のReview全23編のうち、2015年1月末までに最も引用回数の多かったReviewをMost-Cited Review Awardとした。

(8) 編集委員による判定基準の隔たりを是正するため、英文誌編集委員会で「論文採択に関する基本的なガイドライン」を策定した。

6 産学官学術交流委員会報告

(1) 第12回農芸化学研究企画賞の公募・選考

4つの重点研究領域（①先導的生物活性物質研究と新技術開発、②機能性食品素材および食品、③グリーンバイオ

テクノロジー、④地場産業の創生と活性化)において、公募・審査を行い、下記の2件を受賞テーマとして選考した。

重点研究領域① 先導的生物活性物質研究と新技術開発
(応募8件、採択2件)

受賞者：浅見行弘氏（北里大学感染制御科学府・特任助教）

受賞テーマ：ゼブラフィッシュの受精卵感染モデル系を利用した抗感染症薬シーズの探索

受賞者：南博道氏（石川県立大学生物資源工学研究所・准教授）

受賞テーマ：微生物発酵法による植物アルカロイド生産と生薬生理活性物質の創製

重点研究領域② 機能性食品素材および食品（応募1件、採択なし）

重点研究領域③ グリーンバイオテクノロジー（応募1件、採択なし）

重点研究領域④ 地場産業の創生と活性化（応募2件、採択なし）

第12回農芸化学研究企画賞の副賞として、下記18社より御寄附をいただいた。

アサヒグループホールディングス(株)、味の素(株)、天野エンザイム(株)、花王(株)、(株)カネカ、キッコーマン(株)、協和発酵キリン(株)、キリン(株)、月桂冠(株)、サッポロビール(株)、サントリーウエルネス(株)、第一三共(株)、長谷川香料(株)、不二製油(株)、(株)明治、森永乳業(株)、ヤマサ醤油(株)、ライオン(株)

企画賞受賞件数が2件となったため、企画賞副賞寄附企業からの寄附総額に対し今回の企画賞副賞額が少なく残余分（160万円）が生じた。そのため、上記寄附企業の同意を得た上で残余分については第13回農芸化学研究企画賞副賞の一部として繰り越すことになった。

(2) 第7,8回農芸化学研究企画賞受賞者最終報告

農芸化学研究企画賞の認知度向上を目的として、本会和文誌「化学と生物」へ企画賞受賞者の最終報告掲載を推薦することに関して、第7回企画賞受賞者1件、第8回企画賞受賞者3件の計4件を本委員会から和文誌編集委員会に推薦した結果、「化学と生物」2014年10～12月号の解説記事として、第7回企画賞受賞者1件、第8回企画賞受賞者2件、計3件の原稿が掲載された。

(3) 委員定数

本委員の所属が代々固定化されている傾向があるため、なるべく現状以外の所属の方も巻き込むのが望ましいこと、支部の産学官連携の活動と本委員会活動をよりリンクさせるために各支部より少なくとも1名は委員が選ばれていることが望ましいことから、本委員会の委員定数を現状の15名から25名に増員することについて委員の賛同を得たため、理事会に諮り承認された。

(4) 産学官学術交流委員会フォーラム

明治大学で開催された日本農芸化学会2014年度大会において、2014年3月29日（土）に、産学官学術交流委員会・産学官若手交流会（さんわか）主催で、産学官学術交流委員会フォーラムを開催した。

約300名の出席があり盛況であった。内容は下記の通り。

第1部 第11回農芸化学研究企画賞受賞者研究企画発表会

第9回農芸化学研究企画賞受賞者最終報告会

特別講演 イグ・ノーベル賞受賞記念特別講演

第2部 第10回農芸化学研究企画賞受賞者中間報告

第3部 ポスターディスカッション 産・学・官の輪

第4部 シンポジウム「実用化が見えてきた 産学官で挑む バイオマス研究最前線」

第5部 技術交流会（ミキサーと共に）

(5) 産学官若手交流会（さんわか）によるワークショップ開催

・2014年6月3日（木）名古屋大学

第21回ワークショップ「ここまでできる！次世代のバイオ解析技術」参加者約40名

・2014年9月30日（火）東京大学

第22回ワークショップ「新しい局面を迎える機能性食品」参加者約50名

・2015年1月28日（水）東京農工大学

第23回ワークショップ「食糧問題に挑む農芸化学者たち」参加者約30名

7 被災地理科教育支援特別委員会報告

(1) 出前授業（2014年度全1回）

1【第15回】2014年7月18日、22日～24日 宮城県仙台二華高等学校「細菌の遺伝子組換え実験—GFP遺伝子導入による大腸菌の形質転換—」講師：米山裕氏（東北大学大学院農学研究科准教授）聴講者：2年生16名 東北高校、宮城第一高校より教員各1名合計18名

(2) 被災地からの研究室訪問（2014年度全1回）

1【第2回】2014年6月14日 宮城県仙台二華高等学校「オリザニン实物見学と実験体験」訪問先研究室：東京大学大学院農学生命科学研究科 生物化学研究室 講師：東原和成氏 聴講者：生徒7名

(3)「先生のオリザニン」への観劇招待

本会の創設者で初代会長である鈴木梅太郎博士を題材としたお芝居「先生のオリザニン」へ5校を招待した。岩手県立沼宮内高等学校、福島県立小野高等学校、福島県立郡山高等学校、福島県立新地高等学校、福島県立富岡高等学校

8 倫理委員会報告

1) 九州大学における報告結果を受け、本会会員の研究活動における不正行為の疑惑に関して審議し、当該論文 errata を英文誌 BBB (vol. 77 No. 12) へ掲載許可することを第328回理事会（2013年12月17日）へ答申した。

- 2) 本会会員の研究活動の不正行為に関する審議決定について、2014年2月19日付文書を学会ホームページ及びニュースメールにて理事会名で公表した。
- 3) 東京大学における最終調査結果を受け、理事会（第334回2015年2月17日）より本会会員の研究活動における不正行為の疑惑に関する諮問を受けた。

9 財務委員会報告

財務委員会は主に次の議題について議論と課題共有を図り、一部は理事会に諮った。

[財政・予算関連] ①2014年度支部監査費用、②2015年度予算案、③旅費・交通費及び宿泊費規程の変更案、④支部別流動資産の取り扱い、⑤農芸化学研究企画賞副賞の寄附金、⑥委員会旅費精算システム・会費入金突合システムの導入、⑦創立100周年へ向けた学会将来像と長期的財政

基盤

[和文誌・英文誌関連] ①「化学と生物」冊子体購読料と学生会費の値下げ、②和文誌冊子体の無償配布対象者、③和文誌冊子体の一般購読契約、④和文誌冊子体の販売価格及び年間購読料並びに消費税の取り扱い、⑤和文誌電子版の新規発行形態（HTML, ePUB）にかかる予算、⑥英文誌BBB別刷掲載料未収金問題

[事務局関連] ①事務局職員の出張費日当、②契約職員の契約変更案、③給与規程の変更案、④事務局職員の新規募集、⑤平成17年度給与法改正以降の職員給与等の支給実態、⑥事務局職員の昇給・昇格、⑦事務局長契約更新、⑧事務局職員の昇給判定、⑨就業規則の改訂案

[その他] ①2015年度大会展示会契約案、②日本工学会への加盟、など。

◀資料1▶

会員の状況

(2015年2月末現在)

会員種別	名誉	有功	シニア	一般	教育	学生	国外	団体	賛助(口数)	小計
前年2月末	17	203	330	7,635	28	2,103	149	291	111 (225)	10,867
北海道支部	0	11	5	255	1	104	0	9	3 (3)	388
東北支部	0	9	8	388	5	222	0	21	3 (3)	656
関東支部	9	89	148	2,963	13	1,011	0	134	69 (165)	4,436
中部支部	2	18	28	858	4	412	0	35	9 (9)	1,366
関西支部	5	50	70	1,292	3	518	0	41	19 (36)	1,998
中四国支部	0	10	15	631	1	290	0	25	4 (4)	976
西日本支部	0	16	13	475	1	132	0	15	2 (2)	654
国外外	1	0	0	2	0	2	61	0	0	66
合 計	17	203	287	6,864	28	2,691	61	280	109 (222)	10,540
増 減	0	0	-43	-771	0	588	-88	-11	-2 (-3)	-327
入会	0	0	0	271	3	1,058	9	5	4 (5)	1,350
復会	0	0	0	12	0	0	0	0	0	12
会員種別変更	1	8	7	26	0	-41	-1	—	—	—
休会	0	0	0	-6	0	-2	0	0	0	-8
退会	—	—	-45	-360	-2	-289	0	-16	-6 (-7)	-718
会費未納による 遅り退会	—	—	-3	-125	0	-94	0	0	0	-222
会費滞納による 会員資格停止	—	—	0	-580	-1	-43	-96	0	0	-720
会員資格停止 逝去	-1	-8	-2	-9	0	-1	0	—	—	-21
口数変更	—	—	—	—	—	—	—	—	0 (-1)	—
合 計	0	0	-43	-771	0	588	-88	-11	-2 (-3)	-327

◀資料2▶

会誌送付の状況

(2015年2月末現在)

	化学と生物 (第53巻、第3号)		Biosci.Biotechnol.Biochem (第79巻、第3号)	
	国内	国外	国内	国外
名 誉 会 員	5	1	12	1
有 功 会 員	70	0	15	0
シニア会員	158	0	9	0
一般会員	247	0	271	0
教育会員	28	0	1	0
学生会員	120	0	39	0
国 外 会 員	0	6	0	29
贊 助 会 員	107	0	107	0
團體会員	286	0	281	0
一般購読	31	0	0	0
寄贈・交換	18	8	6	11
追加送本 ^{*1}	3	0	4	0
販売用壳 ^{*2}	650	0	0	167
広告用	20	0	0	0
事務局保存用	30	0	13	0
計	1,773	15	758	208
総 計		1,788		966
印 刷 部 数		2,650		1,040
残 部		862		74

※1 賛助会員に追加で送本しているもの(有料)

※2 和文誌を刊行している国際文献社、英文誌を刊行している Taylor & Francis 社がそれぞれ販売しているもの

化学と生物第53巻第3号より、冊子体送本希望者にのみ配本。

「化学と生物」の「一般購読」は第53巻第3号で終了となる。

◀資料3▶

「化学と生物」掲載頁数（下段は編数）

	第48巻 (2010年)	第49巻 (2011年)	第50巻 (2012年)	第51巻 (2013年)	第52巻 (2014年)
解説	321 47	359 49	351 46	348 46	323 44
講座・セミナー室	166 23	135 22	147 24	184 25	177 26
今日の話題	165 73	158 71	146 64	171 55	169 62
研究のスポット・バイオサイ エンススコープ	11 3	21 4	17 4	19 4	0 0
生物コーナー・化学の窓	35 7	23 4	21 4	25 5	63 12
トップランナーに聞く	5 1	11 2	10 2	0 0	0 0
海外だより・学界の動き	25 5	17 3	6 1	0 0	13 3
プロダクトイノベーション	9 2	5 1	11 2	6 1	26 5
「化学と生物」文書館	74 14	75 13	108 17	40 6	0 0
農芸化学@High School	39 14	38 14	25 11	25 9	28 10
その他	28	36	90	30	30
印刷頁数（市販）	878	878	932	848	846
会告等	92	104	104	110	90
印刷頁数（会員配布）	970	982	1036	958	936

◀資料4▶

英文誌投稿状況・掲載状況

月	前年末	2014年 (Vol. 78)													2015年 (Vol. 79)			
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計	1	2	3	計
手持数	229	85	88	76	68	68	52	58	74	57	63	65	66	223	91	56	45	229
受理数		26	25	27	27	28	29	28	26	24	27	25	22	820	24	24	22	192
掲載数		44	48	52	51	46	45	41	44	30	33	38	40	314	41	43	32	70
返却数														512				116

◀資料5▶

英文誌の掲載の状況

	受理 報文数	掲載 報文数	返却 報文数	年末手持 報文数	印刷 頁数	(内訳)		印刷部数
						投稿論文	索引など	
2010年	926	492	462	256	2626	2558	68	1700 (Vol. 74, No. 12)
2011年	941	453	502	242	2490	2424	66	1700 (Vol. 75, No. 12)
2012年	935	441	493	243	2434	2368	66	1700 (Vol. 76, No. 12)
2013年	935	458	487	229	2594	2520	74	1500 (Vol. 77, No. 12)
2014年	820	314	512	223	2134	2108	26	1045 (Vol. 78, No. 12)
増減	-115	-144	25	-6	-460	-412	-48	-455

* 増減は 2013 年と 2014 年の比較